SECTION 5.3 VectorWorks12.5 の配列複製

これまでの3次元座標軸に於ける整合性の不都合が

改善された VectorWorks12.5 の配列複製では複製位

置の数値指定がX軸、Y軸、Z軸、それぞれの座標

軸で行なえるようなり、また「3Dを見る」を「斜め右」

等の等角投影法で立体的に見たままの状態で配列複

製を実行できるようになった。新しい機能によって、

階段等の作成は「直線状にならべる」だけでなく「円

弧状にならべる」を用いることでオリジナルな螺旋

+ Z【上へ】

# 3次元座標軸に対応した VectorWorks 12.5の配列複製



VectorWorks12からマイナー・アップグレーされた VectorWorks12.5 の配列複製が機能面とインターフェースに大幅な改善が見られます。 VectorWorks12までの配列複製は2次元による平面座標系にしか対応して おらず、「複製位置のずれ」は画面(スクリーン)を基準とした2次元座標 によるX軸方向、Y軸方向に基づくものでした。2Dを中心とした作図の 場合はこれで問題はありませんが、3Dモデルを作成する場合に於いて3次 元座標軸と「複製位置のずれ」の整合性はなく、「3Dを見る」が「上」か「2D に戻る」状態に限り3次元座標軸との整合性がありました。

階段にも対応可能です。



上図・配列複製:VectorWorks12.0





3D 機能を使う

1

配列複製

# 5.3 椅子を製作して 3D の仕組みを理解する。(VectorWorks12.5 配列複製への対応) 1) Step4 (300 ~ 301 頁) Step7 (302 頁)

部材 A の配列複製についての記述は「上から見る」状態での操作であり、3D 座標軸との整合性が保たれているので問題はない。

## 2) Step10 (304~305頁)

「部材 D」を選択し、編集メニューから「配列複製」を実行します。「配列複 製」ダイアログボックスに「直線状にならべる/数:1」「複製位置の設定方法 / X-Y 座標を基準に設定/X:0、Y:-450、Z:0」を入力します。配列複製 されたオブジェクトを「部材 D-2」とします。



#### 3) Step13 · Step14 (305~307頁)

「部材 E」を選択し、編集メニューの「配列複製」を実行します。「配列複製」 ダイアログボックスに「直線状にならべる/数:1」「複製位置の設定方法/ X-Y 座標を基準に設定/X:0、Y:0、Z:+170」を入力します。配列複製さ れたオブジェクトを「部材 E-2」とします。

「部材 E-2」を選択します。次に、同様に「配列複製」を実行します。「配列複 製」ダイアログボックスに「直線状にならべる/数:1」「複製位置の設定方法 / X-Y 座標を基準に設定/X:-340、Y:0、Z:-70」を入力します。配列複 製されたオブジェクトを「部材 E-3」とします。

「部材 E-3」を選択して、「配列複製」を実行、「配列複製」ダイアログボック スに「直線状にならべる/数:1」「複製位置の設定方法/X-Y座標を基準に設 定/X:-60、Y:0、Z:-100」を入力します。配列複製されたオブジェクト を「部材 E-4」とします。

「部材 D」を配列複製 複製の形式:直線上に並べる 数:1 複製位置のずれ(オフセット) X方向:0 Y方向:-450 Z方向:0



### 4) Step18 (309~310頁)

「部材 G」を選択し、編集メニューの「配列複製」を実行します。「配列複製」 ダイアログボックスに「直線状にならべる/数:1」「複製位置の設定方法/ X-Y 座標を基準に設定/X:0、Y:-510、Z:0」を入力します。配列複製さ れたオブジェクトを「部材 G-2」とします。



3D 機能を使う